



※学校だよりのタイトル『羽ばたく』は、甲府市出身の宮沢和史さんに作詞作曲していただいた、舞鶴小学校の校歌の歌詞の一節です。「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」になって欲しいとの願いをこめてタイトルとしました。

立春を迎え「春待つ季節に」になりました

オミクロン株の猛威は依然続いており、甲府市は6月の「レベル2」を上回る「レベル3」の感染状況となりました。感染者数の増加とともに1月26日からは分散登校が始まるなど、厳しい状況の中ですが、学校には、可能な限り「教育のあゆみを止めない」よう努めることが求められています。全ての子ども達が、安心して登校できるよう、これまで以上に感染拡大防止に努めて参りたいと思います。保護者の皆様におかれましては、今一度配布された文書やメール等を参考に、お子様のみならず、ご家族全員が感染しないよう最大限のご配慮をお願い致します。

コロナ禍の中の子ども達

■ たこあげ

とても風の強いので、校庭には砂が舞い上がり、登校してきた子ども達も突風に押し戻されそうになるほどでした。風が強いことが2年生の「たこあげ」には幸いしました。様々な図柄を描いた「たこ」を「糸を沢山出したよ」「こんがらがっちゃった」などと言いながら楽しそうにあげていました。

■ 一人一台端末の活用

大寒に向けて何日かとても寒い日が続く、中庭の池の水も完全結氷していました。2年生は、「寒くても葉を見つけた」「面白い氷の様子を見つけた」など、Chromebook を活用して身近な冬を発見し、自分のお気に入りの1枚を残したり、お互いの画像を見合っていたりしていました。

■ 3学期学級役員認証式

年度を締めくくる3学期が始まり、各学級では学級役員を選出することになりました。この日は、各学級を代表して4名の役員さんに「学級役員認証状」を渡しました。「この学級で良かった。」と思えるよう、今年度最後の学級役員さんを中心にして学級活動に取り組んで欲しいと思います。



分散登校開始

26日から本校でも「相生・若松町・中央・丸の内」をAグループ「宝・寿町・飯田」をBグループと2つに分け、三密を避けるために分散登校が始まりました。

■ 健康チェックカード

感染レベル2では、学校に入る前に子ども達と家族の健康状態を確認することになっています。カードが大きくランドセルから出すのに時間がかかるため、1学期はピロティに机を並べて行いました。そこで今回は、カード形式にしてランドセルに吊すことができるようにしました。玄関では、校舎に入る前に子ども達の健康チェックカードを確認しています。

■ Chromebookの持ち帰り

業前の時間に「クロームブック TIME」を位置づけ、子ども達が「文房具」として Chromebook を使用できるよう取り組んでいます。授業を行わない日は、子ども達が家庭に Chromebook を持ち帰り、予めeライブラリに入れておいた問題やドリル・プリントなどに取り組みます。翌々に学校に持ってきて子ども達は内容を確認したり、翌日に使用できるよう充電したりします。1年生からは「使い方にも慣れ、保護者のご協力も得られたことから、全員が無事取り組みました。」との報告がありました。



■給食の準備と様子

分散登校を既に経験している子ども達ですから、普段通り手洗いや黙食など十分な感染対策の上で給食や掃除に取り組んでいます。特に人数の少ない学級では、配膳をする相手がいないので、当番である自分たちの配膳だけになってしまいました。

1年生も成長した姿が見られ、少ない人数ですが、しっかりと準備ができるようになりました。また、友達が半分に減った学級の中でも、静かに落ち着いて食事をしていました。



■Meet 打合せ

分散登校により子ども達の数は半分になっても、先生方と日々の予定を確認しながら教育活動を続けています。先生方の三密を避けるため、Google Meetを活用して打合せを行いました。頭では分かっているものの窓から顔を出して話し合える相手とネットを使って話し合う不思議さを感じました。



■新入児保護者説明会

コロナウィルスの第6波が押し寄せていましたので、今年度の新入児保護者説明会は、文書提案と下校路の確認、物品販売のみとしました。例年ですと、下校方面ごとに「お迎え」をお願いするのですが、本年度は保護者の話し合いもできませんでしたので、保護者に代わって職員が行い、下校路に沿って保護者に子ども達を引き渡すことにしました。



■節分

本来ならば子ども達の前でお話を頂きたかったのですが、子ども達との接点をなくすため、本年度も穴切大神社の宮司である秋山様においでいただき、TV放送で子ども達に「節分」のお話をさせていただきました。綺麗な装束を身にまとい趣ある雰囲気醸し出し、ノー原稿で低学年にも分かりやすい説明をしていただく姿にキャリアの深さを感じました。

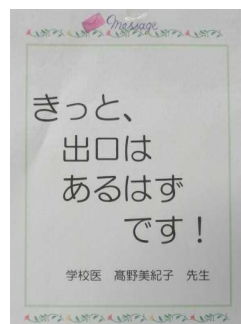


■きっと出口は…

40年前に上映された映画「ブレイドランナー」の原作者である「フィリップ・K・ディック」は、「Empathy（共感・感情移入）が人間とアンドロイドを分ける。」ことを著書「アンドロイドは電気羊の夢を見るか？」で伝えています。作品中で「Empathy」を見せる「アンドロイド」と無慈悲な「人間」のどちらを「人間」と呼び、どちらを「アンドロイド」と呼ぶのか、そもそも「人間」とは何を持って定義するのか、と投げかけています。

いかにAIが発達しても、他者との協働の一つである「Empathy」は人間でしかない心働きであると思います。本校が醸成したい「思い遣る心」は、この「Empathy」と言い換えることができます。

高野先生からいただいた「きっと、出口はあるはずです！」という「思い遣る心」のこもった言葉に私達は励まされます。今は、真っ暗闇の中、崖っぷちを全力で走っていますが、「きっと出口はある！」と信じてこれからも走り続けていきたいと思いました。



「校内研究」について

本校は、令和2年度より「甲府の子どもの教育総合推進校」の研究指定を受けて、「思い遣る心の醸成」と「学力向上」の研究に取り組んでいます。今年度は、1～3年生までを低学年ブロックとして「算数科」、4～6年生までを高学年ブロックとして「国語科」の授業改善に取り組んできました。各学年の授業の様子について、随時お伝えしていきたいと思ひます。

■6年：国語「自分が感じる「秋」を表現する俳句を作ろう」

これまでの学習をもとにして、多様な考えを引き出せる課題設定で、小林一茶の俳句の学習をもとに「秋」を感じる多様性を引き出しました。語彙や七五調への理解、実生活との関連させるために Chromebook を活用し、目的意識を明確にして自分なりの俳句作りを行ったため、子ども達は、興味関心をもって学習に取り組んでいました。

